

令和3年度 第1回図書館協議会

- 1 日時 令和3年6月11日（金）14：00～
- 2 場所 中央図書館2階研修室
- 3 出席者（委員）今村委員、福沢委員、玉置委員、竹内委員、矢澤委員、遠山委員、和田委員  
林委員、会津委員、酒井委員  
（事務局）瀧本中央図書館長、矢澤中央図書館長補佐兼情報サービス係長、  
小森ビジネス支援係長、関口県図書館長、宮下上郷図書館長  
（司会）小森ビジネス支援係長

4 瀧本館長挨拶

5 会長及び副会長選出

出席委員からの立候補、推薦なしのため、事務局案として会長を今村委員、副会長を福沢委員で推薦し、委員の承認を得る。

6 正副会長挨拶

7 会議事項

- （1）飯田市立図書館サービス計画等について
- （2）令和2年度事業報告および令和3年度事業計画
- （3）駅前プラザ（仮称）について
- （4）その他

8 事務局からの事務連絡

- 
- 

\*\*\*\*\*

9 会議内容

（1）飯田市立図書館サービス計画等について

○事務局 資料「飯田市立図書館サービス計画」の概要版と本体、

「いいだ未来デザイン2028」

「教育振興基本計画」

- ・飯田市では「いいだ未来デザイン2028」を策定し、平成29年度から令和10年度までの飯田市として目指す姿について取り組む。「飯田市立図書館サービス計画」は「いいだ未来デザイン2028」の分野別計画の一つという位置づけになっており、未来デザインの実現に向けて取り組んでいくということになっている。
- ・また、「飯田市教育振興基本計画」も同じように分野別の計画ではあるが、この「教育振興基本計画」の重点の1・2・3と、「未来デザイン」の基本計画の中の13の基本目標のうちの3・4・5が同じ取組内容になっている。

③結いの心に根差す教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育む

④豊かな「学びの土壌を活かした「学習と交流」を進め、飯田の自治を担い、可能性を広

げられる人材を育む

⑤文化・スポーツを通じて人と地域の輝き・うるおいをつくる

この中にも特に、子どもの読書に関すること、あるいは生涯学習に関すること、という分野で図書館が関わるところが入っている。

- ・「図書館サービス計画」は第4次となるが、昨年度までの図書館協議会委員の皆さんにも策定には一緒に加わっていただいた。
- ・平成19年度から図書館サービス計画を作り、サービスの向上に向けて具体的に、毎年どのようなことをやるかということを決めて取り組んでいる。
- ・今回、第4次ということで、今年度から令和6年度まで、未来デザインや教育振興基本計画のスパンに合わせた4年間の計画になっており、この4年間に図書館はどういうことに取り組むかという内容になっている。
- ・これまでの取り組みの中から、いくつか課題が挙がってきている。近年特に図書や情報への要望が多様化したり専門化したりしてきているということ、図書館の全体の延べ利用者数は18万人ほどであるが、昨年度飯田市の中央・県・上郷、あるいは分館すべての図書館を合わせて、図書館の貸出利用をされた飯田市民は、飯田市全体の人口中の13.3%ということ。昨年度はコロナ禍もあって他の利用も少なかったが、その前の年も市民のうちの2割に満たない方は繰り返し使ってくださっているが、そのほかの皆さんはなかなか図書館を使ってくださらない。この数字は借りられた数なので、借りなくても使っていらっしゃる方を合わせると、中央図書館の利用を見ても1.6倍くらいになるが、それでも少ない数だと思う。そうした中で、読書という点では本を読みたい方は図書館を使われるが、図書館は読書以外にも、生活の中の課題を解決するための何かを手に入れる場所でもあるということをもっと多くの方に知っていただきたいということで、そんな取り組みもしていくことが必要だと考えている。
- ・子どもたちを取り巻く環境も、コロナ禍もあり、さらに大きく変化してきている。子どもたちが自分から読書をして楽しむことができるようにするためには、読書体験の充実を図っていく必要があると考えている。
- ・高校生から40代までの図書館利用は、もともと少ない年代ではあったが、少ないという状況。
- ・それから、飯田市には各地区の公民館の中にも16の分館があるが、その分館の利用も少しずつ減っている。ニーズを把握して対応していくことが必要と考えている。
- ・飯田市の図書館は開館当初から郷土資料、地域に関する資料を積極的に集めてきて、研究者の方や市民の方、大勢の方に使っていただいている。ただ、やはり近年、研究者の方の高齢化も進んでおり、またインターネットの普及ということもあり、大事にしてきた「地域を学ぶ」という姿が減少してきているという課題があると思っている。
- ・これらの課題を受け、第4次サービス計画を策定した。基本方針としては、3つ。
  - お一人お一人の読書と学びを支えます。
  - 読書を通じた交流やつながりを広げます。
  - 地域の歴史と文化の記録を蓄積して、現在から将来にわたって地域の学びに活かします。
 この3つを基本方針として参りたいと考えている。

- ・具体的な取り組みについては、概要版の中の柱を見ていただきたい。

「1 図書・資料・情報提供の充実」

「2 子どもの読書活動の推進」

「3 身近に使える図書館の充実」

「4 学びあいによる人と人とのつながり、読書や学びが広がる場づくり」

「5 地域の歴史と文化の記録の蓄積、提供」

「6 安全で安心して使える施設の整備」

ということでこちらに書いてあるが、この取り組みについては後ほど、令和2年度の報告と今年度の事業計画というところで、3年度どう取り組んでいくかというところをご説明させていただきます。

- ・一番最後のところに数値目標ということで、この目標が達成できたかどうかということ、この数値によって見ていきたいというものを載せている。細かなそれぞれの取り組みについては、冊子の方に記載してあるので、またご覧いただきたい。
- ・「第4次飯田市立図書館サービス計画」の中の12ページに、飯田市の図書館で大切にしてきたことが書いてある。「よむとす」という言葉。飯田市のムトスという、自分から行うという精神を活かして、読むことも市民の皆さんの主体的な活動であるということ、自ら読むことに関わるという活動、それは個人の読むという活動でもあり、また、団体の活動もあり、あるいは学校や保育所の活動でもあり、それらの読むという活動の推進と支援を目的として「よむとす」という名前を付け、活動を行っている。これを合言葉にして、関係機関と一緒に飯田市の読書を進めていきたいと考えている。

## (2) 令和2年度事業報告および令和3年度事業計画

資料：「図書館概要」令和2年度の振り返りと令和3年度の取り組みについて

### ○事務局

- ・「1 図書・資料・情報提供の充実」

ここでは、市民の方の多様なニーズに対応できるように図書を収集し、求める情報を的確に提供することで、利用者の方の満足度を上げて、継続した利用につなげようということで取り組んできた。

- ・図書の収集では、利用者の方からのリクエストを最優先に、様々な分野の本を入門書や専門書、実用書など、利用状況を考えながら図書を収集した。
- ・令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、滞在時間や座席数を制限することを余儀なくされて、貸出冊数などの利用状況は、図書館全体では令和元年度よりも10%近く利用が減少。一方で、予約数は12%増加している。特にインターネット予約が25%増加して、読みたい本を予約しておいて、来館して予約本を借りるだけという、短時間の利用の方が増えた。
- ・蔵書数について、県図書館が移転したことに伴い、移転先のスペースに合わせた蔵書整理を行ったので、中央・上郷図書館に保管替えをしたり、除籍したりして、本が大きく動いてい

る。受入冊数や除籍冊数が例年よりも多くなっている。また、上郷図書館で児童サービスの拠点として児童書を増やしてきたが、令和2年度末で中央図書館より児童書の蔵書数が多くなった。

- ・今後の地域の動向や利用状況から、ニーズに応じた図書を収集していくとともに、限られたスペースを有効活用するために、飯田市の図書館全体でどのように図書を保存していくのか、保存基準を再検討していきたい。また、市民の方が求める図書や情報を的確に提供していくために、いろいろな調べものに速やかに対応できるようにレファレンス事例の蓄積や活用の仕組みを引き続き検討していきたい。
  - ・それから開館時間について、利用者からの要望を受け、中央図書館の開館時間の拡大の検討を令和2年度に行ってきた。他市の状況などを含めて検討し、来月7月から10時の開館を早めて、9時半開館を計画している。
  - ・図書館概要は7ページから15ページまでが蔵書冊数について、16ページから27ページまでが貸出数などの利用状況について、統計がいろいろ出ているので、ご覧いただきたい。
- 事務局
- ・つづいて同じく4ページ「2 子どもの読書活動の推進」について。
  - ・読書が子どもの心の成長に大切であるということは改めて申すまでもないが、飯田市立図書館では以前から、子どもの読書活動推進、子どもに対する読みきかせ、これらを児童サービスと呼んでいるが、そういった子どもに対する働きかけに力を入れて行っている。
  - ・ただし、近年の利用の姿を拝見していると、図書館を利用されるご家庭と利用されないご家庭の差が年々大きくなってきていると感じている。小さいお子さんが自分の足で図書館に出掛けてくるというのはどうしても難しいので、おうちの方に連れてきていただかないと、なかなか図書館や本に接する機会を持つことが難しいのだが、どうしても足を運んでいただけないおうちのお子さんは、本から遠ざかって行ってしまうという現状がある。
  - ・こうした現状に対して、どういう働きかけができるかということを考えてきている中で、学校図書館の先生たちと共同で子どもたちに本を薦めていく、あるいは子どもたちに本に親しんでもらうということを計画し、実施をしてきている。
  - ・令和2年度に「よむリス」という、小学生の学年別おすすめの本リストを作成した。これは小中学校の図書館担当の先生方全員と市立図書館の職員全員で1年生、2年生におすすめの本、あるいは読んでほしい本ということで、候補を集めて選定を行って、各学年で20冊紹介をするリストを作成させていただいた。本を読むの「読む」とリストの「リス」を掛け合わせて「よむリス」というリストの愛称になっている。表紙のリスの絵は緑ヶ丘中学校の昨年度の生徒さんに書いていただいたイラストになっている。
  - ・今年度は「よむリス」の3年生、4年生版を同じように作成するよう、学校の先生たちと共同で選定に入っている。秋までには作成して、お配りしたいと考えている。また、リストを作るだけではなくて、せっかくできたリストなので、これらを活用した読書活動を推進していくことも考えている。
  - ・つづいて新規事業として、保育園・幼稚園・認定こども園、いわゆる保育所等に通っておられる幼児のご家庭で絵本に親しんでいただく機会を増やしたいということで、4歳児、学年で言うと年中児に、市内の保育所を通じて絵本のプレゼントを行う。

- ・まだ資料をお配りできる段階になっていなくて、パンフレットも制作中であるが、16の絵本から選んでいただいて、1冊プレゼントさせていただく。
- ・事業の名称として、7ヶ月に本をプレゼントするのは「はじめまして絵本」で行っているのですが、この4歳児への絵本のプレゼントは「おともだち絵本」という名称で検討している。自分のそばに置いてもらって、未永くそばにいて、ともだちのように親しんでもらいたいという思いを込めて、「おともだち絵本」というふうを考えている。
- ・あわせて保育所を通じて、絵本のプレゼント以外にも、団体貸出等で保育園の方に本を届けて、園を通じて絵本が家庭に届く、小さいお子さんがいる家庭に日常的に絵本がある環境、本に親しめる環境づくりに取り組んでいくよう、計画をしている。
- ・その他、昨年度行った取り組みについては、「図書館概要」の28ページからの実施事業のところにもまとめてあるので、またご覧いただきたい。読みきかせの活動とか、様々な講座とか、昨年度はコロナの影響を受けて大幅に回数を減らして人数も減少しているが、今年度はこういったものを、感染対策を行いながら、以前のような形に少しでも近づいていけるよう、またやっていきたいと考えている。

#### ○事務局

- ・つづいて、4ページの「3 身近に使える図書館の充実」について。
- ・先ほどの説明にも触れられているが、飯田市は分館が各地区にある。ここの中央図書館と、地域館である鼎・上郷図書館だけではなく、飯田市は地域としては大変広いので、各地域、基本的には小学校区に一つ、図書館を置くという考え方で、地区の公民館の中に分館を設けている。それぞれは公民館の一室、小さな図書館ではあるが、中央・上郷図書館とつながって、全体でサービスをするということで、活動を行っている。
- ・令和2年度はコロナウイルスの感染が拡大した時期には分館が休館となった。その間閉まっていた分、利用数は減ったことになる。分館の利用者は、中央館に足がなくて来られない方が中心になる。特に子どもさん、親子づれ、お年寄りの方が中心になるが、その方たちの利用が大変減ったことになる。また、集会行事も行っており、地域の公民館と密着した行事も今まで行ってきたが、それらも中止を余儀なくされたことが多くなってしまった。
- ・そんな状況の中でも、それぞれの分館で、この状況の中でどうしたら市民の皆さんと本をつなぐことができるのか考え、人が密集しないような形で読書の推進ができないか、去年はそんなことを考える機会にもなった。図書館としても小さな図書館ではあるが、本を読んでスタンプラリーをすとか、繰り返し来たらう、一か所に集中してきてもらうのではないサービス、そんな本と人をつなぐことを考える年にもなった。今年度もまだまだ状況が分からないところではあるが、そんなことを常に考えて進めていきたいと考えている。
- ・また、ここ何年か、分館が地域に密着した資料の収集ができないかということで、4ページの下の方に書いてあるが、各分館の地区の特徴のあるようなテーマの本を集めてみて、自分の地区の図書館だという愛着を持ってもらえる、身近に感じてもらえる、そんなところを目指している。例えば三穂地区では、公民館の隣でヤギを飼っているが、そのヤギが地域のシンボリックになっているので、分館でもヤギの本をいろいろ置いて、もっと深く知ってもらおうと取り組んでいる。それから龍江地区では、今田人形を行っているのですが、人形の文楽の世界なんかも、もうちょっと深く調べることを図書館としても資料としてサポートすることが

できるのではないか、そんなふうな地域に沿ったコーナーを作っている。

- ・それから5ページの上、先程も話があったが、高校生から若い世代がどうしても図書館全体として利用が少ない、ということになっている。どんなことを展開していったらその世代に働きかけられるのか、ということはずっと考えていたが、来年度駅前にオープン予定の駅前プラザ（仮称）、新聞で報道されたかと思うが、そこに働きかけのコーナーが作れないだろうか、そんなことも検討している。こちらについては、後ほど別資料で紹介させていただく。
- ・つづいて「4 学びあいによる人と人とのつながり、読書や学びが広がる場づくり」
- ・図書館では、図書館だけではなくて地域の学びをされている方たちと連携を取って、一緒にいろいろな講座を今まで行ってきた。飯伊婦人文庫さんと文学連続講座を定期的に開いてきたり、伊那谷地名研究会の方と地名講座を開いてきたり、地名研究会の方は図書館の中に資料のコーナーを作っていたり、そんな連携を行ってきた。
- ・しかし昨年度は講座を開くということが難しい年になってしまい、開いたものに関しても、定員を設けてということになってしまったり、図書館以外の広い会場を借りて行うということになったりと、制約があり、なかなか難しい年になった。今年度もどんな感じで開けるか、どんなところでつなげていけるか、今この時代で出来ることを考えて進めていきたいと思っている。
- ・28ページからの実施事業の案内のところにもあったが、31ページに昨年度行った事業の様子も掲載した。写真が載せてあるのは「飯田市読書会交流会」。読書会をやっていたりの方たちが集まって、情報交換したり、グループトークしたりということを行った。写真を見ていただくと、広い会場をお借りして、いろんなグループの方たちが集まって、それから読書会というものに興味があるという方が集まって、情報交換したり、本について語ったり、そんな場を設けることができた。今年度も集まる企画だけではなくて、図書館の中に資料を並べる、そういった研究団体の方たちの活動を紹介する、そんな形でも、人と人がつながったり、人と本が繋がったり、そんな機会を設けていきたいと思っている。
- ・つづいて「5 地域の歴史と文化の記録の蓄積、提供」について。飯田市の図書館の大変貴重な資料である郷土資料、これをどのように整理をして、後世に残していくか。それから、市民の方に使っていただけるか。これはこれまでも継続して行ってきたし、この先もきちんと行っていく必要がある。
- ・昨年度、また、今年度は図書館だけではなくて、美術博物館や歴史研究所と連携して、郷土の資料をきちんと伝えていく、きちんと保存していく、それからそれを市民の方に利用していただく、研究者の方に活用していただく、そんな方法を探していきたい。
- ・また、図書館の中だけではなくて、公民館が主催している市民大学講座へこちらから本を持って出かけて、講師の方が紹介する本をあらかじめ聞いておいて、それに合わせた本を持って行ってロビーに展示を行った。関心のある方たちが講座に来られるので、その方たちにさらに学びを深めていただくと、そんなことを目指して活動を行っている。
- ・今後は郷土資料を集めるだけではなくて、いろんな情報発信の方法を探っていき、どんなふうに使っていただけるか検討していきたいと思っている。
- 事務局
- ・「6 安全で安心して使える施設の整備」について。図書館を皆さんにご利用いただくには、

今まで申し上げたサービスや活動も必要であるが、施設そのものが安全で使えることも必要となってくる。

- ・これまでも職員による日常的な目視等による点検とか、専門的な設備については専門の業者に点検を委託して、実施してきた。
- ・令和2年度末に「飯田市教育委員会施設等総合管理計画」が策定された。これは飯田市教育委員会の施設ということで、小学校・中学校などの学校施設やグラウンドや体育館などの体育施設、それから市内にある公民館、文化会館等の文化施設、あるいは図書館や美術博物館など、飯田市全体の施設の中で6割くらいを占めると言われている教育委員会の施設それぞれが、建ってからだいぶ年数が経ち、あちこち劣化が進んでいる。学校等でも耐震改修やエアコンの設置等が進められてきているが、今後も教育委員会の施設管理を計画的に進めていくということで、「飯田市教育委員会施設等総合管理計画」というものが策定された。
- ・この計画において、図書館についても、施設管理計画を示したところであり、先程申した日常的な点検の他に、経年劣化への予防保全型の修繕ということで、今まではどちらかということ、壊れたり何かあった時に施設の修繕をしていたが、そうではなく、前もって、壊れる前に手を加えていく、ということで、5年に一度、専門業者による建物の劣化状況の調査を行い、その結果に基づいて、5年間で計画的に直すべきところを直していく、という施設整備計画を立てた。
- ・また、劣化の他にも、環境に配慮した施設ということで照明のLED化、使いやすい環境ということで和式トイレの洋式化、といったことも計画的に進めていく、ということで計画を立てた。
- ・概要の38、39ページの施設管理について。昨年度は、県図書館が建てられてから年数が経っており安全対策が必要な状況であるということで、今年の3月に県自治振興センターの3階へ移転し、3月14日にオープンした。こちらの経過が載っているの、またご覧いただきたい。
- ・39ページには、昨年度の主な施設改修・修繕について掲載した。昨年度は中央図書館においては、外壁のレンガの改修、雨漏り修繕等を行った。上郷図書館については、エアコンや小荷物用昇降機の修繕を行った。
- ・今年度以降については、予定しているのは、予防保全型改修として屋根、外壁の改修、環境改善型事業として上郷図書館のトイレの洋式化、また照明器具についてはLED化をだんだんと進めていく、という予定となっている。
- ・5ページに戻り、新型コロナウイルス感染症対策としては、館内の消毒作業、あるいは閲覧スペースの席の数を減らしたり、消毒の回数を増やしたり、感染状況や警戒レベルに応じた対応をこれまで行ってきて、今後も引き続き感染レベルに応じた対応を行っていききたい。

〈質疑〉

○会長

(1) (2) について意見、質問等はあるか。

○委員A

安心・安全ということで、防犯カメラの設置をしたかと思うが、その後の様子をお聞きしたい。

- 事務局 令和元年度末に防犯カメラを中央図書館と上郷図書館に1台設置した。過去に、館内での盗難事件であるとか、痴漢行為であるとか、そういうことがあったため、防犯の意味で設置した。館内で利用者の方がどんな本を見ているかというのは全く見るできないし、見られないようなものになっている。防犯ということで設置をしたが、幸いその後、防犯カメラを必要とするようなことは起きておらず、カメラによる確認ということは一度も行っていない。
- 委員A 役に立っているということか。
- 事務局 防犯ということで、有効であると思っている。
- 会長 委員の皆さん、いかがでしょうか。
- 委員B 開館時間が9時半からになるということだが、ある程度の期間ということではなくて、ずっとか。
- 事務局 6月の議会で議決されたらということではあるが、中央図書館については、現在のところ、今後どこかで見直すということがなければ、ずっと行う予定である。
- 委員B ということは、研修室等もその時間からお借りできるのか。
- 事務局 はい、そうですね。
- 委員B わかりました。ありがとうございました。
- 委員C 私も若いうちは全然図書館を利用することをしてなくて、今は携帯で色々なことを調べたりすることができてしまう時代なので、本当に図書館自体を利用するようになったのは子どもが生まれてから。今、上の子が小学校2年生だが、乳幼児学級で図書館の利用の仕方を教えてもらい、それから使うようになった。最初は衛生的な面が気になり、図書館でどうい本があるかというのを軽く見てから、子どもが欲しがるものを本屋さんに行きに行くという形を取っていたが、図書館の人たちがちゃんと整理整頓をされているところから、最近は買うよりも回数多く借りて、色々な本を子どもに見せるようになった。
- 委員D 私は伊賀良の図書館を利用させていただいているが、新刊の所から、今年に入って36冊ばかり本を借りて読んだ。昨年発行されたもの、今年出版された本がどんどん入って、陳列されていて、端から借りて読んでいるが、図書の購入のリクエストというのは、どういうふうに決めているのか。また、今年予算は社会教育のお金が飯田市で減っているが、図書館も少し昨年度よりも減っているけれど、図書の購入に影響は出ているか。
- 事務局 予算については、全体の予算としては、昨年度は大きな工事として、県図書館の移転と中央図書館の外壁改修とがあり、県は2千万以上、中央は1千万近く計上していたので、全体としてはそこで縮小になっている。図書の購入費は、まるっきり同じではなく、県図書館の規模が少し小さくなり、今までと同じだけ買うと入りきらないという部分が少し減っただけで、あとは基本的には同じ。図書購入費については、なんとしても維持したいということで毎年努力をしているところ。
- 事務局 リクエストの本については、この本が読みたい、新聞に出ていたからこの本が読みたいという方が大勢いらっしゃるが、基本的にはそういった利用者の方から出される本は、受験のために使うような参考書のようなもの以外は、ほぼ全て購入するなり、買えないものは他の持っている図書館から借りるなりして、用意をさせていただいている。直接この本を、とってくださる場合はその本を用意させていただくが、それ以外でもこんな本を、例えば野菜の作り方だ



ったりとか、日々いろんな事を聞かれるので、そういったことを書き留めておいて、こういう本が欲しいという方がいたから、今度はこんな本を入れよう、ということも含め、毎週中央・鼎・上郷図書館選書担当が選書会議を開いており、そこで決めている。

○委員E

今聞いていて思ったアイデアがいくつかある。私の経験上だが、市立病院に一ヶ月入院していたことがあって、簡易入院だったが、元気でいた。市立病院の本が、どういう基準であるのかわからないが、少し置いてあるだけだったので、せっかく市立同士なので、図書館の分館までいなくても、いろんな本を、雑誌とか本とか選べるのがあるといいなあとと思った。リクエストコーナーがあって、司書さんが届けてくれるとかだったら最高だなと思った。それから、学校との連携というところだが、うちの子どもが今、図書委員をやっている、「本を読まない図書委員だぜ」とか言ってやっているが、彼らなりに当番があると責任を感じて、当番にはちゃんと行く。そういう時に名誉職ではないが、市立図書館からの役割みたいな感じとか、何かちょっとテンション上げるようなものがあると、またやる気が出たりとか、本に対する興味というのが1ミリでも出てくるのかなあと思った。あと、読書会について、月刊いいだに、この1年の間だったと思うが、オキナツコさんという漫画を描いていらっしゃる方が読書会について書いていた記事があった。婦人文庫さんとか飯田には結構いっぱいあって、なかなかおもしろいよ、という記事だったので、そういうのも紹介していく手段になるかなと思った。ちょうど今、月刊いいだにるので、必要であれば繋ぐこともできる。学校に、小中学生にタブレットが配付されたが、どのように利用されているかわからないが、そういうところでも図書館のレファレンスサービスとか、こういうのも使って調べ学習するといいよという感じで、図書館の人が出前で使い方を教えに来てくれたりとか、普段の調べ学習とかで繋がれるといいなと思った。

○事務局

市立病院について、図書館とやり取りするというのは、除菌とかそういう部分で神経を使うのでなかなか難しいところがあるが、中央図書館で不要になった本をきちんと丁寧に拭いて、少し回している。そのあたりをボランティアでやってくださる方がいらして、市民の方たちがこちらからきちんと拭いたものを持って行っていただいて待合室に置いていただくとか、細々とではありますが、そんなことは少しやっている。

○委員E

市民の人たちにしてもらえると嬉しいですね。

○事務局

そうですね。そういう活動をしてくださる方がいるということがありがたいと思う。

○委員F

先程の取組のところ、5番で説明をいただいた地域の歴史、文化の記録の蓄積、提供というのは、図書館、特に中央図書館にとっては非常に大きな任務の一つではないかと思う。非常に貴重な資料が多々あるかと思うが、ここへ足を運んでそれを閲覧するのはいいが、ネット等ではどの程度のところまで保管されている資料を見ることができるのか。どの程度までデータベース化されているのか。

○事務局

資料そのものを見られるというのは本当にわずかしかないが、どんな資料があるかというのは、おおよそわかるよう目録での公開を積極的にしている。例えば堀氏が集めた古書はどういうものがあるかという一覧は見られるものは多いが、そのものが見られるかという、堀氏が集めた資料だと、表紙と中の数ページは見られるようにしてある。県のアーカイブに飯田市の図書館の資料をいくつか提供して、県のアーカイブの中で見ていただくというものがいくつか

はあるが、デジタルアーカイブ的な実際の資料を閲覧できるものは数がまだまだ少ないという状況である。

- 委員 F            デジタル化するのも大変なご苦労があるかと思うので。
- 事務局            今は館内ではご覧いただける形になっていて、先程申し上げた目録に載せてあるような資料も館内のパソコンだとデジタルで見えていただけるといものがたくさんある。明治からの南信新聞であるとか、南信州や信州日報の最初の頃からのというのも、図書館でデジタル化していて、館内あるいは歴史研究所では見ていただけるようになっている。
- 委員 F            わかりました。利用させていただきたい。
- 会長              他にはないようなので、次の項目に進む。

### (3) 駅前プラザ（仮称）について

資料：「飯田駅前プラザの基本的な考え方」

- 事務局
  - ・本日配布の資料をご覧いただきたい。ほかの資料から抜き刷りしたものであり、表面が1番、裏面が3番となっているのでご了承いただきたい。
  - ・まず、駅前プラザ（仮称）、こちらの基本的な考え方を説明する。昨年夏ごろから部分的にプレスリリースされていて、新聞や広報で少しずつ取り上げられているものになるが、駅前にある旧ピアゴの建物の再利用という形になる。
  - ・ピアゴが閉まってしまったことで、地域の課題として、買い物をする場所がない、丘の上の地域にスーパー的なものがなくなってしまったということが一つ。それから、駅前という立地であれだけの大きな建物が空いてしまっている、使われていない建物が駅前にあるということ。こちらが課題となっていた。
  - ・それに対して、吉川建設さんが、地域として良くないのではないか、丘の上の活性化として、活かすべき場所・建物であるのではないかということで、土地と建物を取得していただき、市と連携して建物を再利用していきたいということで、市と吉川建設さんとで検討が始まっている。そのあたりが資料に2018年、2019年の頃と書いてあります。昨年度から本格的に検討が行われ、資料の四角のところ、1階、2階、3階、4階、5階というふうに書いてあるが、1階が商業エリアとして、スーパー、商業施設が入ること、2階と3階は市の施設として使う、4階、5階が吉川建設さんのオフィスが入る、本社機能が入ることなどで進んでいる。
  - ・飯田市としても、駅前という立地条件であり、飯田の駅というのは、私たちの年代だと車で動いてしまうのであまりなじみのないところであるが、車では動かない人たちにとっては、交通の拠点となっている。特に高校生にとっては、飯田市だけではなくて下伊那のどの町村からも自分で飯田駅には来られるという交通網ができていて、バスや電車で、車がなくても飯田駅には来られる、そこから乗り換えて違うところにも出かけていけるという、交通の拠点としての飯田駅前、また中心市街地を活性化していく人が集まる新たな拠点にしていきたい、ということで始まっている。
  - ・裏面には、2階と3階に入る予定の公共のフロアの基本的な考え方が記載されている。みつ

ける、つながる、育てる・共感する、実現する、と進んでいくような場所にしていきたい。いろんな人や物や事が集まってきて、そこから何か新しいものが作り出されていくような、抽象的なことになるが、そんな場所にしていきたいということ。そして、特に若い世代、高校生から20代くらいの若い世代が集まれる場所になっていくといい、そこで集まったことで何か生まれてくるような場所になるといいな、ということが基本的なコンセプトになる。

- ・そんなところで市としても、どこか一つの部署だけが考えているのではなくて、教育委員会の中でも市の公民館、生涯学習・スポーツ課、そこに図書館も入り、それから商業・市街地活性課、多文化共生係、いろんな部署からメンバーが集まり、こちらの活用を考えているということになる。
- ・教育委員会の中としては、中央公園の隣の市の公民館の機能を丸ごと移転させるということも一つ。飯田市の中の公民館ですとか、ホールですとか、これからどうしていくのかという方向性の検討の中で、公民館のホール機能は、現在のホールの形ではないが、機能はこちらの駅前プラザに移転するという事になっている。
- ・公民館が中心となり、いろんな部署やそこに関係する市民の方、使っている団体の方と一緒に、駅前という場所にどんな場所を作ったら、どんなふうに活用していったらいいのか、そんなことを昨年度から考えてきている。下のほうに、いろんなところと食でつながるだとか、国際交流でつながる、多世代交流だとか、いろんなことを、まだ検討している段階ではあるが、考えてきている。
- ・そんなところに図書スペースを設けるといふかたちで図書館も関わっている。ただ、公民館機能が丸ごと入るといふ、そんなに大きなスペースではないのだが、ここに来た人たちが本から何かを見つけてもらえるような場、そこから何かを実現していくだとか、何かやってみることにつながる、実際に動くことにつながる、そんなような場になるといいということで図書館も考えている。この駅前プラザ自体が、高校生から若い世代をターゲットにしていきたいという市の方向が出ており、ちょうど図書館はその世代が利用が少ないところであるので、こちらをうまく活性化して、その年代にアピールしていきたい、本を使って何か新しい発見をしてもらいたい、そんな場になるようなことを考えている。
- ・表に日程的なことが出ているが、今年の夏ぐらいから工事を始めて、来年度の春、5月ぐらいの予定でオープンを目指している。今、建物の中のことはおおむね決まってはきているが、その場を使ってどんなことをしていきたいか。公民館だとか、ほかの施設が入るが、そういうところと連携し、先ほどサービス計画にもあった、学びあいによって人と人とがつながるとか、読書が広がっていく、そんなところにもつながっていくようなことをしていけたらいいなと思っている。ぜひ、皆様からも、こんなことをこの場所でできるんじゃないか、こんなことをしてみたら楽しそうじゃないか、高校生にアピールできるような、こんなことがあるんじゃないか、という意見をいただきたい。
- 事務局
  - ・この施設の2階、3階は会議室がずらっとあるようなイメージではなくて、真ん中はオープンなスペースがあって、行った人がしゃべりながら何かをしたり、相談しあったり、勉強したい人は勉強もできる、というスペースがたくさん取ってあるというのが特徴で、周りもなるべく閉鎖的にならないようになっている。例えば多文化と図書館が何か一緒にできないか

とか、平和資料館と図書館が何か一緒にできないかということも考えている。また、今、飯田の図書館で何が若い人たちにとって足りないかというと、お話ししながら本を選んだりとか、ゆったりと座ってのんびりと本を読んだりとか、読んだ本のことで「これおもしろいよな」という話をしたりする場所がないというのが、悩みの一つでもある。もっと自由に使えるスペースがあれば若い人たちも本をきっかけに話をしたりとか、読みたい本をゆったり読んだりできるんじゃないかということもあって、ここができた折にはそんな場所としても使ってほしいということもある。飯田市の図書館の課題と、飯田市の目指すものが一致していることもあり、ここに図書コーナーを設置していきたいということをつけ加えさせていただく。

- 会長 (3) について意見、質問等はあるか。
- 委員F 高校生の利用が増えるだろうというのが予想されるが、今中央公園の横にある市の公民館が完全に移転するわけだが、市の公民館は様々な団体が使っているが、会議なりイベントが終わればそれでお帰りになる。別に他に寄るといことはあまりないかと思うが、今度の場合は、会議やイベントが終わった後、そこにいろんな施設があれば立ち寄ってみるとい非常にいい機会が生まれたと思う。市公から中央図書館に来るとい人はあまりいないかもしれないけれど、プラザからその中にある図書館を利用するか、他の施設を利用すること。そういう他の利用のマッチングがしやすい環境ができてきたかなあということで、大いにまたその辺りを研究していただければありがたいと思う。
- 委員A 高校生がたくさん利用してくれるような場所になってくれればと思うが、高校生の意見を聞くようなことはあるか。
- 事務局 これから市民ワーキンググループというのを募集して、今使っている団体や関連団体の方たちから意見は聞いてはいるが、秋ぐらいに高校生からも意見を聞きたい、ということになっている。
- 委員A 大人ばかりが考えていても、利用する高校生の意見とか気持ちとかを聞かないと、やっぱり高校生の気持ちに沿ったものにはなっていないかなと思ったので。
- 事務局 市民ワーキングの大人の皆さんにも、意見を聞いた高校生にも、実際に始まった後も関わっていただくと、こんな風に運営していったらいいとか、自分たちはこんなことをやってみたいとか、その場所を使って実現してみるとか、意見を聞くだけでなく、その人たちが自分で何かやってみる場にも繋げていく、そんな風に持っていけたらいいなと思っている。
- 委員G この会に出させてもらって、いろいろ工夫をされていて、そういうことを初めて知ったものですから、大したものだなと思っている。自分が中央図書館を利用させていただいてもう20年近くになる。きっかけは経済的なこと、買うより安いところだったが。子どもたちも結構利用して、本が好きになるというのはどういうところなのかな、自分はどうやって本が好きになったのかなというのを考えていたが、友達の影響が大きいなという風に感じている。中学の時も本好きな子がいて、その子に私は引っ張られて図書館に行ったというような形ですし、高校の時には、やっぱり本好きの友達がこれ読むとおもしろいよ、というような紹介をしてくれて、それじゃあ読んでみるわ、というような環境で本を読んでいたなと思ったので、今のお話で、これおもしろいよ、と話せるようなスペース、環境ができるということはとても良いこと

だなと思う。

○事務局      そんな環境を作っていきたい。

○会長      また何か気がついたことがあったら、どんどん図書館のほうへ意見を言っていただきたい。

#### (4) その他

○会長      続いて、その他とあるが、せっかくこの会に出席してくださっているので、感想等一人一言ずつお願いしたい。

○委員H      中学生と図書館ということはずっと考えていたが、学校の図書館もすごく充実していただいているので、校内の図書館でも十分機能を活用しているところもあるが、中学3年生になると、図書館に行って勉強するというのの一つのステータス、やった気がする、できるようになった気がする、という場所になる。あとは、最近は学校もエアコン入っているので環境としては整っているんですけど、図書館に行くのが涼しくていいとか、そういう利用の仕方をさせていただいている。限られた生徒だったり、限られた時期というのもあると思うが、本当にこうやって地域の図書館を大事にしてくださっているのは、おそらく中学生には伝わっていないかもしれないが、ありがたいことだなと思って話を聞いた。また、卒業した子たちが素敵なスペースで他のいろんな人たちとグローバルに交流が持てるような場所が展開されたらすごくいいなと思う。

○委員I      小学校です。いろんなお子さんがいる中で、本がそれぞれの距離を縮めるというのがあって、物語は読めないけれど、歴史の本は好きという子がいて、潜在的に歴史が好きの子が多く、子どもたちに聞いたら、もっと歴史の本を読みたい、でも、お金がかかる。そうすると図書館だなとなる。デジタルにはない、紙ベースの良さがあるのかなというのがある。子どもたちも本が本当に好きなので、うちの司書もいろんな事を考えて、スタンプラリーとか、プレゼントとか考えているが、そういう中で司書同士の繋がりをこういうところで作っていただけたらありがたいかなと思っている。

○委員F      いろいろ話を聞かせていただく中で、図書館の職員の皆さんが一生懸命やられているなあというのを実感した。ありがたいことだなと思う。私も時間を見つけて図書館へ足を運びたいと考えている。

○委員C      子どもも図書館大好きで、上郷図書館を頻繁に使わせていただいている、私自身もパソコンが使えないので本があるとすごくありがたくて、借りるという形をとって、料理だったり、何かを調べるとか、子どもが病気をした時も知識がないよりはと思って、いろいろ調べたりすることが多いので、そういう面でも利用させていただきたいと思っている。駅前プラザについて、高校生の待ち合わせの場所みたいな感じになるのかなと思うので、友達を待っている間に時間があるから、という些細なきっかけでも、やることないけど、時間もちょっとあるから本を借りてみようかな、というようなきっかけになったらいいなと思う。

○委員E      本を読まない図書委員と言っている息子は今4年生で、ちょうど親子読書を1週間学校の企画でやっていたが、最後の二日に読んでいた本が、『本多勝一はこんなものを食べていた』という漫画だった。息子は「オラは本は嫌いだ」と明言しつつ、その本はおもしろかったらしくて、本というものに対してのアレルギーとまではいかないが、そういうのがあっても、おもし

ろいものは普遍的におもしろい。本との出会いは、人の出会いや物との出会い、そういうものの中の一つなんだなと感じた。本は情操教育という部分とリテラシーの部分、調べものをしていく、自分の知恵を深めていくという両面で必要だなと思うが、インターネットで調べればどんな情報でも出てくる。インターネットで調べるのも悪いわけじゃなくて、それが確かなものであるとか、そういうことを知っていく上で自分の技術をあげなければいけないという時に、図書館は調べものの専門家として、子どもたちの役に立ってほしいなと思う。保護者もプロではないので、落とし穴にはまっていると思うので、そういうところでも司書さんたちの力を借りられるのかなあと思っているところ。

○委員H 私たちのグループは、目の不自由な方や高齢者の方で、自分で本を読めない方のために、録音図書を作っている。飯田下伊那、この辺の郷土資料を中央図書館が積極的に録音図書にしようとしてくださると思うが、録音図書にするよという事で、とてもそういうものに触れる機会が多いし、自分が好きな本だけ読んでいた時とは全く違い、本当にいろんな本を音訳化することで、いろんな本に触れられている。利用者の方も、前のテープ図書だったころは、地元の利用者の方にテープをダビングしてお渡しすることしかできなかったが、デジタル化して、全国でできている音訳のものを希望すれば中央図書館で取り寄せてくれるし、また、私たちが作ったものを北海道の人が聞きたいと言ってくだされれば、北海道の人に聞いてもらうこともできるような世の中になっている。一生懸命やっているが、どういうものが本当に読まれているのかなというのを知りたいし、これから高齢者がどんどん増える世の中で、そういう方たちに利用してもらいやすくして、どんどん聞いてもらいたいなという風に思っている。今日は若い方が話題の中心だが、そういう方にも必要とされるような録音図書を作っていけたらいいなと思った。

○委員B いつも前向きな姿勢で図書館の方が動いているので、すごく感心するし、ありがたいと思っている。個人的には駅前プラザにすごく期待があって、いろんな分野の交流がこれから新しい形で生まれてくるんだろうなと思って、すごく期待しているし、何かあれば関わりたいと思っている。よろしくお願いします。

○委員G 図書館サービス計画に出ていると思うが、飯田の公民館活動はすごく充実していると有名で、その基は図書館で「学びたい」というところにあったんだというようなことが書いてあったと思う。そういうのを見ると、今日のお話の中でも、学ぶという姿勢があるんだなというのをすごく感じた。自己確立というか、そういうところを大事にされているんだなと思いました。今、私は地区のほうに関わっているので、地区の自治会とかが高齢化していてなかなか、よしやってやるぞ、というのが出ない。役は嫌ですよ、というような人たちがすごく増えていて、そういうところで、今までの飯田の公民館の活動が絶滅危惧種なんじゃないかな、と思っているのだが、そういうことを考えて、ここに出させてもらって、飯田で大事にしている学びの精神を大事に育てていきたいという気持ちを持った。ありがとうございました。

○委員D 地域のネットワークができていて、私が本を読みたいと思ったら、調べていただいて、松川町と喬木の図書館から取り寄せていただいて本を読むことができ、いろんな面ですごく良くなってきているなと思いました。千葉にいる娘と話をしたら、近くの分館かと思うんですが、そこに行ったら、ほとんど新しい本を置いてなくて、私が伊賀良図書館でこういう本読んだと

いうと、全然そんな本置いてないということで、飯田市の図書館はすごくいいんだなと感じた。いい図書館でずっといてほしいと思った。

○委員 A

私も図書館をあまり利用しない者の一人だが、実は読みかせボランティアを始めてから、その前に保育士をやっていたので、自分が本が好きで、読みたいと思ったら自分の手元に置いておきたいという気持ちが非常にあり、二階の天井が落ちてくるぞ、と言われるくらい本が家にある。今、断捨離を始めて、半分以上保育園に運んだ。もっと厳選しないとダメと思ってやっているところだが、でもやっぱり自分の手元にはない本は図書館へ借りに行き、行くと自分はこの本を借りるはずだったのに、こっちの本、あっちの本、とどんどん目移りして行って、1冊借りるはずが3冊、4冊借りて帰っていくという、そういう状況である。やっぱり図書館ってそういう所じゃないのかなと思っている。先程お話の中で、ネットで予約してカウンターへ行って本をもらって帰っていく、というのはそれでは寂しいかなという…。確かにそれでも図書館を利用したことにはなるけれども、本当にそれは図書館を利用したと言えるのか、と思ったりもしている。機械化が進む中でそんなことを言っていたらいけないのかな、とも思うが、なんとか図書館の中に滞在する時間を長くするような工夫をしていけたらいいのかなと思った。

○会長

ありがとうございました。皆さんのいろんな意見が聞けて良かったと思います。またよろしく願いいたします。進行を事務局へお返しします。